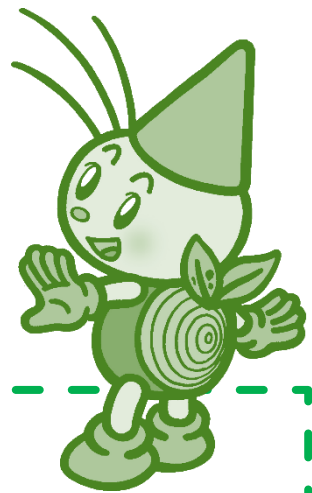


まるいん通信

発行 公益財団法人屋久島環境文化財団 電話 0997-42-2911



研修センターオープンデー

屋久島環境文化研修センターでは、3年振りにオープンデーを開催いたします。参加費は無料ですので、是非おこしく下さい。

日時:令和4年6月19日(日)9:30~12:30
場所:屋久島環境文化研修センター
予約:不要
参加:小学生以下は保護者同伴
駐車場:荒川登山バス停付近の駐車場(案内に従い)をご利用ください

内容

- ・火おこしチャレンジ
- ・ネイチャーゲーム
- ・いろいろな昆虫をみてみよう
- ・1日限定! やくしま水族館
- ・楽しい工作体験

※雨天等により内容を変更することがあります

【参加にあたって】

- 〈新型コロナウイルス感染拡大防止にむけて〉
- マスクの準備をお願いします。
 - 受付時の検温とご氏名等の記入、ソーシャルディスタンスの確保等、お声かけさせていただきますが、皆様の御理解と御協力をお願いします。
 - イベント当日1週間前から発熱・倦怠感・嗅覚異常の症状がある方は参加をお控えください。
 - イベント当日3日前から、島内で新型コロナウイルス感染者が確認された場合、イベントは中止になります。その際は、屋久島環境文化財団ホームページでお知らせします。

南日本銀行様より

寄付金贈呈がありました

令和4年5月6日、「なんぎん世界自然遺産登録記念定期預金」に係る寄付金贈呈式が屋久島環境文化村センターで執り行われました。

当該寄付金は、株式会社南日本銀行が、世界自然遺産である「奄美大島・徳之島」「屋久島」の環境保護に資することを目的に同定期預金を販売され、お預入総額の0.01%相当額を奄美群島広域事務組合及び当財団に寄付金として贈呈していただいたものです。

いただきました寄付金(50万円)は、屋久島の自然を守り、自然と共生する地域づくりを進めるための様々な活動、支援に活用させていただきます。ありがとうございました。

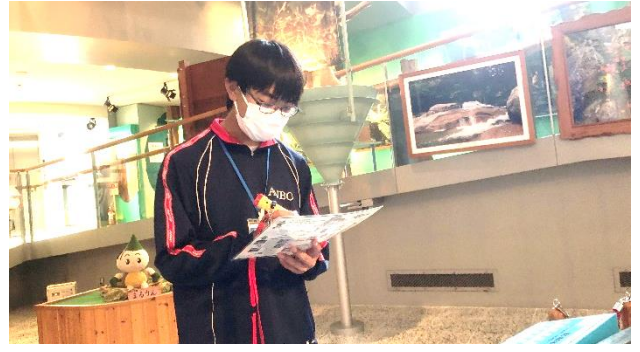


右: 南日本銀行屋久島支店長兼安房支店長 稲留 達朗 様
左: 弊財団事務局長 高良 尚男

財団活動報告



5/17~19 中央中学校 栗脇 響希さん



5/24~26 安房中学校 藤山 柊生さん

5月17日から19日と24日から26日までの間、中央中学校と安房中学校の生徒1名づつが弊財団において職場体験を行いました。一生懸命に取り組む姿を見て、スタッフも改めて初心を思い出せていただきました。以下、お二人の感想です。

栗脇：将来を考えるにあたって、とても貴重な体験ができたと思います。

1日お世話になりました。とても楽しかったです。本当にありがとうございました。

藤山：何度か来たことがある場所でも職員側に立つと、また違った体験ができました。短い間でしたがありがとうございました。

インストラクター便り

研修課インストラクター：中村 幹 (かん)

タカラガイのジレンマ

海の中の潮がよく当たる岩陰などを覗くと、つやつやと丸く殻口がギザギザした切れ目のような「タカラガイ」がいることがあります。

屋久島では「ウマンコ」などと呼びますが、私の故郷の神奈川では「ネコノメガイ（猫の目貝）」と呼びました。

この「タカラガイ」、名前の通り実際に宝物として扱われた歴史があります。特に屋久島でもサンゴ礁の発達した海岸でみられる「キイロダカラ」は、英語でも「Money cowry（お金のタカラガイ）」と呼ばれ、中世にはアフリカからポリネシアまでの広い範囲で交易のための貨幣として使われていました。

お金を表す漢字に使われる部首が「貝」なもの、この種類からきていると言われます。

そして同時に、大きな種類は身もしっかりしていてクセがなく大変おいしい貝としても知られています。

ですが、殻の口が狭いためうまく中身を取り出すのは至難の業。ドライバーなどで殻を割ってしまうのが一番手っ取り早いですが、そうするときれいな貝殻は台無しになってしまいます

きれいな貝殻か、おいしい中身か。さあ、あなたはどちらの「宝」をとりますか？



貨幣にもなっていた「キイロダカラ」



屋久島を想う

事業課主事

岩川 武尊

今年度より財団で仕事を始めましたが、屋久島で生活を送ってきたにも関わらず、今まで知らなかったことが数多くありました。その中でも、特に印象に残っているのが里めぐりです。

私は着任後、4集落の里めぐりに参加させていただきました。集落内を語り部の話を聞きながら自分の足で歩いてみると、これまで気にも留めないことが面白く感じるものが多くありました。

私自身もそうですが、通勤・通学等の時に車で通り過ぎるものの、集落内を実際に歩いたり、集落特有の名所を観たりしたことがない人もいるのではないのでしょうか。島内に在住している方も楽しめると思いますので、機会があればぜひ参加してみてください。

昨今では中学・高校を卒業後、進学等を機に地方から都市部で生活する人が大半で、私のように地方で生活を送り続ける人は少ないと思います。自然を大切にするとともに、里の魅力を発信していくことで、地元に戻ってくる人が増えていくことを願うばかりです。

【6月・7月の休館日】村センター・研修センター休館日は同じです

6月: 6日(月)・13日(月)・20日(月)・27日(月)

7月: 4日(月)・11日(月)・18日(月) --夏休み期間は毎日開館--